

# 漁港等の浚渫底泥の固化処理による 着生基質への再利用

水産土木工学部

## 研究の背景・目的

漁港や養殖場として利用される内湾域では、水質改善対策として、堆積した底泥を浚渫しても、その最終処分の場の確保が困難になっています。そこで、浚渫した底泥を再懸濁することのないよう固化処理し、ブロック化することで、漁場造成のための海藻や餌料生物等の着生基質に再利用する手法を提案する。

## 研究成果

- ①一部のブロックで、角部や稜部の若干の削れや表面劣化等が確認されましたが、大きな欠損、崩壊等はなかった。
- ②ブロックの圧縮強度は、2年経過しても、作製当初の圧縮強度と比べて大差ないことが確認できた。
- ③ブロック表面には浮泥等が堆積していたものの、海藻の着生およびフジツボ、ゴカイ等の付着動物の蝟集が確認できた。

## 波及効果

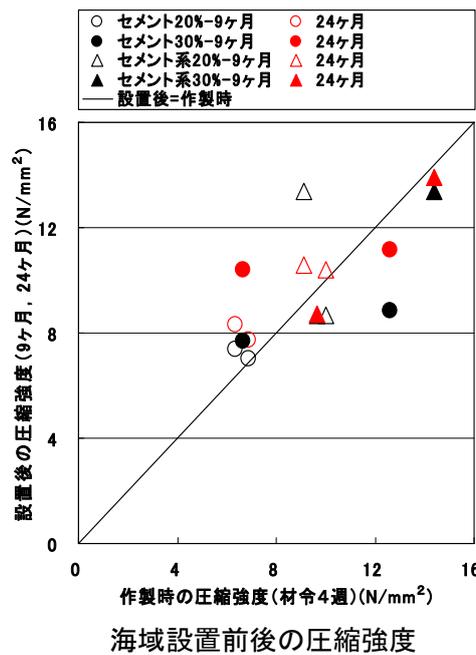
漁港等の浚渫底泥をセメントなどの既存の固化材を用いて固化処理し、ブロック化することで、漁場造成のための着生基質等に再利用することが期待できる。



固化体ブロック



表面劣化



海藻着生状況



海藻着生状況

(漁港施設研究室・坪田幸雄, 佐伯公康)